

昭和二十二年

(一一三二)

合掌 御便り確かに頂きました。有難うございます。ご無事でご精進なさいますこと、大賀の至りに存じます。この度は大変働いて下さって有難う存じました。ようこそ本部で歳をとつてくれ、又御法を聞いてくれました。御母上の喜びをおもいます。学問すれば、御念仏の心で、法律にしても根本は祖国を立てんためですから。いよく、金剛の真心に乗托して念仏一道に生き、斯の道こそ日本を救い、一切衆生を救う永遠の真実道であることを確信して、精進致しましょう。

親鸞聖人言わく「世の中安穩なれ 仏法ひろまれ。」

昭和二十二年一月二二日

住岡夜晃

松岡五作様

(一一三三)

合掌御便り頂きながら失礼しています。大変御寒くなりましたが御変りは御座いませんかお伺い申し上げます。さて引続いて、明石、河口の二君を送つて下さいまして誠に嬉しく有難く衷心から御礼申し上げます。二君の真剣なる精進ぶり、又すなおに正法に信順される器であることを誠に嬉しく存じます。将来のある両君が金剛不壊の信念に一貫して教育壇上に立つて下さることは祖国の為に嬉しいことです。日頃先生の膝下にある人たちのこととて、誠に如来大悲が先生に与えられたる最上の御褒美であります。如何に聞いたようでも信じたようでもひそかに名利心が入つていと一人の生きた御褒美をも頂くことが出来ません。御いのちの流れには新しい芽を出すことは当然であります。御家庭のなごやかな様を御もらし下さいまして誠に嬉しく有難く存じました。「道光明朗超絶せり。」明るく喜びに満ちた念仏道であります。一ぱいづゝ少し差し上げたら元氣になつて、本部にも出て下さるのだが残念です。本部でないと空気が出ませんので、一つ元氣を出して下さいよ。存在そのものがものを言う方には長生きして頂かねばなりません。奥様、先生を頼みますぞ。

明石君に「大きなものに生きて小さいことにこだわるな、現実の騒動は浄土ならぬ無明生死海を立証する波浪だとおもうこと、悲観するに当らない。それよりも唯一光輪を仰いで金剛の弘誓大船に安住すべし」と御告げ下さい。道は唯一つです。

〇〇さんのこと、一応本人の意志通りに歩ませて見るのがいいことではないかと存じます。

南無阿弥陀仏ただこれだけです。ほんとにこれだけです。外にあるのは無明虚偽の複雑です。御大事になさいませ。敬具

昭和二十二年一月二十九日 住岡夜晃

竹村強裕先生

(二二四)

合掌 御便り確かに頂きました。有難うございます。ご無事でご精進なさいますこと大賀の至りに存じます。睦月は有難い島になりました。三人が集って讚嘆している様を嬉しく思い浮べています。生死大海の波荒きにつけてもいよく、弘誓大船の金剛の安住をおもうことです。風をひかぬようになさい。いよいよ金剛の真心に乗托して念仏一道に生き、この道こそ日本を救い、一切衆生を救う永遠の眞実道であることを確信して精進致しましょう。

昭和二十二年一月二十九日 夜晃

中村正様

(二二五)

合掌長いこと御会いせぬので筆を取ることになりました。その後御容態如何ですか。子供らは元気ですか。遂に休暇にもよう帰らず子供らに気の毒でした。

先ず母の病氣、風邪でせきが大分よくなつたが熱が七度台を降らないで辛いらしく、陰鬱な中に夜は交替で介抱しています。田鶴もつききりです。今でこうということとばないが(以上八日認)、今朝母が食事しているとところにゆくと、昨夜はやや安眠し、せきも大分楽になつたと云っている。やれ／＼と安心したことです。二三日前まではどうなることかと心配しました。

次に臨時講習第四日、夕食を撰つていると右の耳の下、耳の前が急にふくれ上つて来て、休講、外科医は、内出血だろうとのこと、直ちに休講、君のところへ秋作君が大きく云つてやつたとのこと心配かけて相すまぬ。二日したら吸収したが、私は津田先生の「そりや耳下腺の分泌液ではないですか」がほんとはないかとおもえてならん。大したことはないから心配せぬこと。今でも食事すると少しふくれる。

十二月聖会、教講、御正忌と、最近の大収穫にも君が病氣になつて帰つて来ないのてさびしい。その中には是非聞いてもらいたいことも沢山あつた。早く元気になつてくれ。臨講の「眞仏土巻」も是非一度聞かせたい。

いよく、故郷に帰り得る日が近づいた。今のところでは四月二十二、三、四日小戸谷西楽寺、二十五、六、七日本立寺と云つてやつた。両寺との都合では、上旬になるかも知れない。田鶴も美津子も秋作も皆一緒に帰ると言い、秋作は七人揃つて帰つて二日間ほど祖先の仏事の会座をしようと言っている。いづれ日時が確定したら秋作君から何か言うだろう。大法に乗托してでなければ故郷には帰らないと決意して、母親の御はからいに托したことが事実となつて下されば、これだけ嬉しいことはない。妹らが中原にと言つても「まあ待て、時機がある」と止めていたので今度はつれて行つてもいいとおもう。前岡とも打ち合わせなければいけないし、講中への土産

等々、校長も色々考えているようだ。いよく、錦を故山に飾る時だ。大法の錦を。しかも時は「預言者村に入れられる」時だ。思えば故郷離れて二十五年、夢にさえ浮ぶなつかしの故里、故山も喜んで迎えてくれるであろう。

一月二十一日から三日間、吉坂村、薬王寺に行ったが驚天動地、大法の威力の広大なにおどろいた。未曾有の大盛会であった。中原も亦、如是の盛大を出現するであろう。どうか、それ迄に体を充分養って元気になっておきたまえ。魔事なくことの出現するように切念している。

鶴枝さん風邪はどうかね。子供らは元気かね。御大事に御養生なさい。南無阿弥陀仏だけだ。真にこれだけだ。

昭和二十二年二月九日 蘇晃君

夜晃

(一二六)

合掌 御便誠に有難う／＼頂だい致しました、この度はようこそ御出て下さいました。それのにとんだ病気で終りを全うすることが出来ず、皆様におわびしておいて下さい。大分よくなりましたから御心配下さいませ。しかしこれが人生の実相です。「いよいよ聞かれる日に真に聞け」と叫ばずにはいられません。一家一族の念仏化こそ戸主の荷うべき使命であります。今日一日念仏申すこと、鬼をとりうしなはずに、3

母上によろしく。

昭和二十二年二月十日 夜晃

山田保重様

(一二七)

合掌 御便確かに頂きました。有難うございます。御無事で御精進なさいますことと大賀の至りに存じます。御便と書物、確かに頂だい致しました。

誠に有難く厚く御礼申し上げます。大家でも有難うないこと、つまらぬこと、間違ったことも云うものだと思心したり、又有難いことがあるば念仏して読みました。

お金は送りますからいい本があつたら買って置いて下さい。

いよく、金剛の真心に乗托して念仏一道に生き、この道こそ日本を救い一切衆生を救う永遠の真実道であることを確信して精進致しましょう。

親鸞聖人言はく「世の中安穩なれ仏法ひろまれ。」

昭和二十二年二月十日 夜晃

脇質様

(二二八)

合掌 御便り確かに頂きました。有難うございます。

ご無事でご精進なされますこと大賀の至りに存じます。長い間御会い致しません。原田君も来てくれません。有難いお話の時にはおもい出します。無明動乱の世ではあるが、そのあるがままの中に御念仏を頂いていることは何とも云えぬ有難いことです。不廻向の自覚のところ廻向があることの不思議を昨今おもいつづけています。いよ／＼金剛の真心に乗托して念仏一道に生き、この道こそ日本を救い一切衆生を救う永遠の真実道であることを確信して精進致しましょう。

親鸞聖人言く「世の中安穩なれ仏法ひろまれ。」

昭和二年二月十一日 御大事にお念仏なさい。

原田としえ様

夜晃

(二二九)

合掌 南無阿弥陀仏 御無沙汰しました。上京したとのこと御変わりはありませんか。先月はせつかく政治が帰つたのにそれも待たで母上が永眠されたとのこと、誠に胸中お察しします。御手紙も見せてもらい、君が悲しみの程もさこそ／＼と肯かれます。不幸なる宿命のもとに生れられた、遂に地上ではお会い出来なかつた母上を思うて念仏することではある。政治苦しからう、悲しからう。思い出す度に不幸な子だつたと胸の苦しさをどうすることも出来まい。しかしそれが人生の実相である。このまゝが生死の苦海である。

矛盾に満ち満ちているので無明生死の実相である。この矛盾を抱きしめて悩まねばならない、そのまゝが救われて生死即涅槃、煩惱即菩提と、名号の世界において調和されているのである。御念仏申すべきである。苦しいにつけ、悩ましいにつけ、矛盾のままに光被したまう撰取の光中に念仏申そう。

母上の御不幸が身にしみて悲しければ、いよ／＼念仏して一道を生きぬくのである。今や母上は政治自身となつていられる。政治自身より外に母上は生きてはいられない。政治が大成することがそのまゝ絶対の大孝である。そこに目が覚めた時、はじめて涙の中に安らぐことが出来るであろう。ほんとうに泣かせて下さるものも如来であり、ほんとうに涙をふいて下さるものも親様である。不幸なる宿命を負ふて生れられたる母上を受け取つて泣くものは政治だけであろう。一生かけてこれを負い、しかも御念仏を生きさせて頂くとところに君の孝道がある。御念仏の中にお母様は生きて念々君を護りたまうであろう。悲観することなく一道に精進したまへかし。

煩惱即菩提、生死即涅槃、あるがままの人生がみ名によつて真実一と相即し調和されてある。信の内的光景こそ尊きものである。

春とは云へ寒い日である。風邪をひかぬようになさい。この書状何度にも筆をとり遂に旅に持って出た。御悔みがおくれました。謹んで御念仏の中に御悔み迄。敬具

昭和二十二年三月八日 夜晃

山田政治君